



論点整理

第一章 次期学習指導要領に向けた基本的な考え方 ②

自らの人生を舵取りする力と民主的な社会の創り手の育成

- ◆ 生成 AI などデジタル技術の発展が相まって、皆と同じことができることも重要だが、それ以上に独自の発想や視点に価値が置かれるようになってきている。現在の学校教育の中で主体的に学びに向き合えていない子供も多くなっている。少子化に伴う入試による動機付けの変化、学習時間の減少等も踏まえ、学びの動機づけをアップデートする必要もある。
- 予測困難な時代に、労働市場の流動化や就業期間の長期化、マルチステージの人生モデルへの転換が進む中、しなやかに「自らの人生を舵取りできる力」が不可欠となりつつある。また、内なる国際化で人口の多様性が増すとともに、SNS や生成 AI の負の側面の影響もあり社会分断の可能性等も指摘される中、デジタル時代に主体的に社会参画する「民主的な社会の創り手」の育成も喫緊の課題である。
- ◆ このため、全ての幼児児童生徒に育むべき資質・能力育成の具体化・深化と並行して、一人一人の「好き」(興味・関心)を育み、「得意」を伸ばしながら、それらを原動力として学び全体への動機づけを図っていく取組と、「当事者意識をもって、自分の意見を形成し、多様な他者と対話や合意を図る取組」を同時に進め、これらが有機的に関わり合い高まっていく教育課程に変革していく必要がある。



学問は自分自身のためにする

いにしえ まな もの おのれ ため いま まな もの ひと ため
古の学ぶ者は己の為にし、今の学ぶ者は人の為にす。

(訳) 昔の学者は自分の修養のために学んだが、現代の学者は人に知られよう、認められようとして学んでいる。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（PHP研究所）